

## 今年の総合防災訓練は11月14日(日)に開催

多くの台風や地震そして浅間山の噴火 何をしますか? 本年度は、高層の集合等、自然災害が頻発しています。私たち 住宅に住む私たちに何が必要か? より大島で災害が発生した時にあなたはまず 実践的な訓練を計画中です。

### ご近所誘い合わせて訓練に参加しましょう!

防災訓練に参加を! 防災対策委員会委員長 Y・H

1995年1月の阪神淡路大震災より、10年目を迎えようとしている昨今、皆さんの家庭の備えは大丈夫でしょうか。例年通り11月14日に、大島6丁目団地自治会主催の防災訓練を、城東消防署の協力を得て行います。

災害といえば、最近では浅間山の噴火、日本中あちこちで起きている地震、少しでも災害に強くなりましょう。

11月14日の防災訓練では城東消防署指導と、消防ボランティアの協力で、ひとりひとりが覚えておきたい、避難訓練及び初

自助と共助の徹底を 防災対策委員会副委員長 K・T

今年の夏は酷暑など国内でも水害やら自然災害等なにかと不安な日々が続いておりますが、安全安心の生活が営まれるよう祈りたいものです。

災害は突然来るものですが、それも日頃から意識を持って対

策委員会として、11月14日に実施します防災訓練に、皆様の御理解を戴き、多数の方の参加をお願い申し上げます。

### 防災対策委員会にあなたのご意見を!

防災対策委員会副委員長 Y・Y

阪神淡路の大震災の衝撃も、年月を重ねるうちに薄れてくるものです。逆に直下型の関東大震災の発生する可能性は、年々高くなって来ています。

私たちの住む大島6丁目団地は、耐震工事も終わり関東大震災級の災害にも対応できるとされています。しかし、災害が起き、ガス・水道・電気のライフ

ラインが断たれ、トイレが使えなくなったり、あなたとあなたの家族の命を守るための準備は大丈夫ですか? タンスや食器棚、テレビ、冷蔵庫が飛び倒れてきた時、あなたの部屋で安全な場所はありますか?

いざという時、人は一人では生きて行けません。災害が発生した時、近所の方と助け合いながら生き残るためには、日頃からのご近所付き合いが一番大切です。



### 防災対策委員会報告

◆6月6日午後2時より3号棟集会所にて、本年度最初の防災対策委員会を開催。前K委員長転出による退任を受けて、新委員長に6号棟のY・Hさん、副委員長に6号棟のK・Tさんと7号棟のY・Yさんを選任しました。

◆7月27日午後7時30分より3号棟集会所にて幹事会を開催。11月14日開催予定の総合防災訓練の企画案に関して、8月24日開催予定の防災対策委員会にて提案する企画案を作成。また、災害協力隊役員等担当者確認。

◆8月24日午後7時30分より3号棟集会所にて防災対策委員会開催。総合防災訓練の企画案について検討、今年度初めての企画として「発災対応仮想訓練」を行うことを確認。新しい訓練を行うため、城東消防署大島出張所所長を招いて、臨時幹事会を開催する事を決める。

◆9月10日午後7時より3号棟集会所にて、幹事会を開催。城東消防署大島出張所所長を招いて総合防災訓練の企画案について意見交換をする。

◆9月28日午後7時30分より3号棟集会所にて防災対策委員会開催。総合防災訓練の企画案の詳細について、自治会に提案する委員会案をまとめる。

# 地震に対する10の備え

- 1、家具の転倒・落下防止をしておく
  - ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下防止措置をしておく。
  - ・けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておく。
- 2、けがの防止対策をしておく
  - ・避難に備えてスリッパやスニーカーなどを準備しておく。
  - ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
  - ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラス飛散防止措置をしておく。
- 3、家屋や塀の強度を確認しよう
  - ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
  - ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。
- 4、消火の備えをしておく
  - ・小さな揺れの時には、火の始末をする習慣をつけておく。
- 5、火災の発生の防止対策をしておく
  - ・普段使用しない電気器具は、差込プラグをコンセントから抜いておく。
  - ・電気やガスに起因する火災発生防止のための感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設備しておく。
- 6、非常用品を備えておく
  - ・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
  - ・車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。
- 7、家族で話し合っておこう
  - ・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- 8、防災環境を把握しておこう
  - ・地域の防災マップに加えて、わが家の防災マップを作っておく。
  - ・自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- 9、過去の地震の教訓を学んでおこう
  - ・消防署などが実施する講習会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
  - ・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから防災の知識を身につけておく。
- 10、知識・技術を身につけておこう
  - ・日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領など身につけておく。



## 地震、その時の10のポイント

### 地震時及び直後の行動

- すばやい消火、火の始末
  - 1、小さな揺れを感じた時
  - 2、大きな揺れがおさまった時
  - 3、出火した時

### 大きく揺れた時の行動

- グラツときたら身の安全
  - 大きな揺れを感じたら、まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見る。

### 地震後の行動

- あわてた行動、けがのもと
  - 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 窓や戸を開け、出口を確保
  - 小さな揺れの時、又は揺れがおさまった時に、避難できるよう出口を確保する。
- 落下物、あわてて外に飛び出さない
  - 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので注意する。
- 門や塀には近寄らない
  - 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

### 地震後の行動

- 正しい情報、確かな行動
  - ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。

### 地震後の行動

- 避難の前に安全確認
  - 電気・ガス
  - 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

### 地震後の行動

- 協力し合って救出・救護
  - 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。
- 確かめ合おう、わが家の安全、隣りの安全
  - わが家の安全を確保後、近隣の安全を確認する。